

「上牧町学校適正化基本計画（素案）」
パブリックコメントの意見に対する回答

上牧町学校適正化協議会

令和4年2月

目次

I. 実施概要	1
1. 実施の目的	1
2. 実施の方法	1
3. 実施結果	1
4. いただいたご意見の取扱いについて	1
II. 意見に対する回答	2
1. 個々の意見に対する回答	2
意見番号1：「家の購入理由」「アンケートの実施対象について」	2
意見番号2：「中学校の早期統合を」「通学手段の検討を」	3
意見番号3：「人口動向再調査後に小学校2校体制の存続を」	5
意見番号4：「特別支援教育の質の維持を」「通学に関する課題の解決を」	7
意見番号5：「上牧町独自の基準を」「跡地利用の明示を」	8
意見番号6：「単学級でもよい」「費用負担がないように」	10
意見番号7：「家の購入理由」「公平な校区編制を」	11
意見番号8：「特別支援学級の子どもたちのことを考えて」	11
意見番号9：「統廃合よりも少子化対策を」	12
意見番号10：「移住者の受け皿となるまちづくりを」	13
意見番号11：「質問・相談の場を」「不登校・通学負担への対策を」	13
意見番号12：「通学距離の延伸に伴う防犯への取組を」	14
意見番号13：「家の購入理由」「不登校・通学負担への対策を」	15
意見番号14：「通学負担が大きい自治区への対策を」	15
意見番号15：「特別支援学級等の環境整備の徹底を」	16
意見番号16：「在学中の児童生徒に対する環境整備を」	18
意見番号17：「在学中に影響を受ける子どもたちへの対策を」	19
2. 主な意見に対する回答	20
(1) 小・中学校の統廃合自体に反対	20
(2) 第二小学校、第二中学校の廃校に反対	24
(3) 統廃合に伴う通学手段や通学路の安全確保について	25

I. 実施概要

1. 実施の目的

本町内の小・中学校の統廃合等の基本的な方向性を示す「上牧町学校適正化基本計画」の策定に当たり、その基礎資料となる「上牧町学校適正化基本計画（素案）」への町民のみなさんのご意見・ご要望を広く聴取し、それらを反映することを目的として実施しました。

2. 実施の方法

(1) 実施期間

令和4年1月7日～2月3日

(2) 対象者

- ①町内に住所を有するかた
- ②町内に事務所又は事業所を有するかた（そこに勤務するかたも含みます）
- ③町内の学校に在学するかた

(3) 意見提出の方法

所定様式又は任意様式へ必要事項を記載した上で、郵送・FAX・メール・持参のいずれかの方法による提出

3. 実施結果

意見提出件数：17件

4. いただいたご意見の取扱いについて

いただいたご意見は、住所・氏名などの個人情報及びそれらを特定されるおそれのある記述を除いた上で、要約しています。

Ⅱ. 意見に対する回答

1. 個々の意見に対する回答

意見番号1：「家の購入理由」「アンケートの実施対象について」

いただいたご意見
<p>上牧小学校と上牧中学校との統合は反対です。</p> <p>小・中学校は統廃合が決定される可能性が高いということですね。部落とは別の学校であるから、この地域に住むことを決めたのに、もし、決定となれば裏切られた気持ちです。親が勧めたせいで、子供もこの地域に家を購入してしまいました。</p> <p>上牧町の方々は親切で、穏やかで、自然豊かで気に入っておいりましたのに、統廃合が決定ありきであれば残念です。</p> <p>二世帯で暮らすご近所さんも多いので、これから子供の世帯が増えていくと思っていました。</p> <p>アンケートはこれから小学校、中学校に通う事になる、今、赤ちゃんを育てている世代を中心に聞いたものでしょうか？年配者、子育て終わった人には所詮、他人ごとではないですか？</p> <p>本当に考えるべきは、実際これから子供を通わす世代に聞くべきなんじゃないでしょうか？</p> <p>統廃合になってからでは家の資産価値も下がると思われますので、決定した時点で、孫たちの世代は引っ越しすることを検討することにします。本当に残念です。</p>
ご意見に対する考え方
<p>アンケートに関しましては、未就学児や児童生徒がいらっしゃる全世帯（1,342世帯）と無作為に抽出した世帯（858世帯）の計2,200世帯を対象に実施いたしました。保護者の方からは、1,342世帯のうち、601件の回答をいただきました。</p> <p>*町の考え方</p> <p>人間は生まれながらにして自由かつ平等で誰からも奪われることのない様々な権利を等しく持っています。</p>

日本国憲法においては、侵すことのできない永久の権利として基本的人権が保障されています。

ただ、このたびのご意見では、差別的な観念にとらわれた内容が含まれていたことは大変残念だと感じております。

上牧町では、町民の誰もが被害者にも加害者にもならないよう、様々な差別や人権侵害についての正しい理解を深め、一人一人が大切にされ、人権が尊重される「まちづくり」に努めていきたいと考えておりますので、より一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

意見番号2：「中学校の早期統合を」「通学手段の検討を」

いただいたご意見

・現在、上牧第二中学校、上牧第二小学校、上牧幼稚園に子どもを通わせている保護者です。

・上牧町の児童数の減少を目の当たりにしています。そのため、**小中学校の統合には賛成です。**

現状の体制では、児童数、クラス数の減少により、子どもたちの健全な成長に必要な経験ができなくなる可能性があるからです。また、適切な教員数の確保ができていないことも統合が必要であると考えられる理由です。

・**中学校の統合については、早期の統合を希望します。**現在でも、生徒数、クラス数の減少が原因で、学校行事の盛り上がりの低さが気になっています。また、部活動が活発に活動できていないこと、教員不足による指導者の確保ができていない状況は、憂慮すべき状況だと思います。大きな事故が起こらないか心配です。また、教員不足による、専門教科以外の教員が授業をしていることや生徒に関わる時間の低下によって起こる、学力の低下や心のケアの不十分さが子どもたちに与える影響ははかりしれません。中学校を一校にまとめることで、上記の課題が解消されるでしょう。**ただ、統合することで通学時間の増加が心配です。**素案では、徒歩での通学が原則となっていますが、60分も重い通学鞆を持って通学することは健康上、心配です。**自転車通学の導入やスクールバスの運行、コミュニティバスの利用などが統合の条件であると考えます。**

・**小学校の統合については、統合することについては賛成です。ただ、**

素案で示されている、『上牧小学校と上牧第三小学校の二校に統合する』ことには、反対です。二校の距離が近すぎることで、上牧第三小学校の運動場や教室等の設備面での不十分さが理由です。

『上牧小学校と上牧第二小学校の二校を存続させること』を主張します。上牧小学校と上牧第二小学校では、地理的にも設備的にも問題がないと考えます。校区の再編成を行い、通学時間の増加する地域に関しては、スクールバスの運行やコミュニティバスの増発などで対応ができると思います。金富、梅ヶ丘、緑が丘、友が丘、下牧3丁目、片岡台2丁目、桜ヶ丘2丁目の子どもは、通学時間がかかなり増加すると思います。・小中学校は、子どもたちの学び場としての側面と災害時の避難場所としても側面もあると思います。統合することによって、防災計画の見直しは必要となり、避難経路などの再検討が必要となります。第二小学校の前には、UR上牧団地があり、高齢者が多く生活しています。災害時の避難場所の確保の観点からも、上牧第二小学校は存続させる必要があると思います。

ご意見に対する考え方

ご指摘のとおり、現在1つの中学校では、クラス数が少ないことにより、部活動の選択肢が限られる、また、クラス数によって教員の数が決まるため、教員不足により、専門以外の教員が授業をしている、生徒に関わる時間が減少する等の問題が生じています。これらを解決するためには統合は必要だと考えています。通学に関しましては、生徒の負担をできる限り軽減できるよう、令和4年度に設置する委員会及び部会で、具体的かつ慎重に協議を重ねる予定です。

統合の時期に関しましては、改修等に必要な期間を精査した上で、令和4年度中に公表いたします。

令和11年度から13年度を目途に現在3校ある小学校を2校とし、存続する学校を上牧小学校と上牧第三小学校としました。存続の主な理由としましては、上牧小学校は、ほぼ中央に立地していること、上牧第三小学校は、全体のうち児童数が占める割合が最も高く、今後、新たな開発による人口増が唯一見込まれているという点です。

また、まちづくりという観点から、公共施設のあり方を考えたとき、これからどのように町内の人口が動いていくかということも加味しな

がら、人口が多いところの学校を残すということが一般的ではないかと考えました。通学の問題は、中学生よりも小学生の方がより慎重な議論が必要だと考えております。児童の負担を軽減できるよう、令和8年度以降の委員会及び部会で協議を重ねてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

意見番号3：「人口動向再調査後に小学校2校体制の存続を」

いただいたご意見

(1) 小学校の統合は、みんなが徒歩で通える2校体制存続を優先して下さい。

(14 ページ 3 行目)「1校のみを存続させる場合は、上牧小学校を～」と記されています。そうすると、最も遠い片岡台1丁目から安全な経路を通ると大人の足で片道36分(グーグル地図による)、小学校低学年だと45分近くかかると見られます。これは、現在最も遠いとみられる松里園→上牧小の片道25分(グーグル地図)よりはるかに遠くなります。もし、上小以外を最後に残したら、今度は松里園から非常に遠くなります。誰もが徒歩で通学できる条件を維持するためにも、小学校は2校体制維持を最優先の課題にして下さい。

(2) 2校体制長期維持のため、両校の人数ができるかぎり均等となる校区割りを。

(14 ページ 1 行目)「2校を存続できる年数が著しく短期的であると見込まれた場合は1校のみを存続」と記されています。うまく割れば2クラスずつの2校体制がある程度維持できると見込まれます。人数のできるかぎり均等配分を考慮した校区割りをお願いします。

(3) 残すのが二小か三小かの判断は、時期尚早ではないでしょうか。

(14 ページ 2 行目)「2校を存続させる場合、上牧小学校及び上牧第三小学校」と記されています。南エリアは上小校区で、北エリアは二小と三小のどちらになると考えられます。どちらを選ぶかは、校区割り確定時の方が適切ではないでしょうか。なぜなら、「誰もが近くの小学校に徒歩で通学できる」ための配慮が必要だからです。「二小を廃止

する」という断定はいったん撤回をお願いいたします。2025年度の人口動向再調査を見て、校区割り確定の時期に、どちらを選ぶかを決めた方が適切な判断ができるのではないのでしょうか。

(4)「義務教育学校若しくは小中一貫校の可能性を残す」必要性がどこにも書かれていません。今回は削除し、本当に必要ならば、改めて提起をして下さい。

(13ページ16行目・14ページ5行目)上中や上小を存続させる理由として、「将来的な義務教育学校若しくは小中一貫校への移行の可能性を残す」という記述が3回も登場します。しかし、この素案のどこを見ても、義務教育学校の必要性も住民要求も出てきません。削除をお願いします。今回のテーマは、まず、いかにして、きちんとした6年制小学校、3年制中学校の条件を整えるかです。どうしても、義務教育学校にしなければならない理由があるならば、町は、改めて提起し、時間をかけて検討して下さい。

ご意見に対する考え方

本協議会においても、2校体制存続を最優先課題と考えています。

現時点で、存続する学校を明記したのは、令和7年度の推計後まで公表しないとすると、どこの学校が廃校になるかわからないまま、憶測によって不安を煽ることになるのではないかと、また、統合年度まで一定の年数があることで、校名を記載した方がそれに向けての準備ができるのではないかと考えたからです。

義務教育学校(小中一貫校)に関しましては、制度的には、中学校1校、小学校2校でも可能ですが、町内に小学校が2校ある間は、移行は考えていません。現在は、小学校2校の維持を目標としていますので、義務教育学校(小中一貫校)の必要性等の具体的な協議は、小学校が1校になるときと考えています。しかし、将来的に義務教育学校(小中一貫校)が必要となったとき、本町は一体型の施設を新設できる予算と敷地の確保は難しく、施設隣接型が望ましいと考えられます。現在は、移行については議論の段階に至っていませんが、将来、必要となったときに、隣接している小中学校がないと、その実現性を失うことになります。そういった意味での記載であり、義務教育学校(小中一貫校)の必要性

に關しましては今後時間をかけて適切な時期に検討していく必要があると考えていますので、ご理解を賜りたいと存じます。

意見番号4：「特別支援教育の質の維持を」「通学に関する課題の解決を」

いただいたご意見

・ 6 ページ（参考2）について

校区編制をすれば各中学校各学年2クラスずつになるのですね。新しい校舎の第二中学校をなくして上中だけになるのは納得できません。

この表には特別支援学級の数はないっていませんでしたが、一校になるといろんな面で支障が生じると考えられます。学校という施設をなくすと、人口が減るのが加速するのではと懸念しています。

上牧町に住んでもらう為には、保育所・幼稚園・学校は大切な要素だと思います。

新しい人達に住んでよかったと思えるプラスの方針を考えてアピールする為にも学校をつぶすことはマイナスになると思います。

・ 8 ページ

クラスの人数が少ないことによって個人指導が徹底され、ひとりひとりの学力がのびるといふ利点が大いだと思います。

・ 10 ページ

小中学校における通学距離・通学時間のあり方のところでは、小学校では4 km以内と書いてあるが、もし第二小学校が廃校になった場合、片岡台1丁目・2丁目、桜ヶ丘の地域の1年生が歩いて上牧小学校に行く時間（子どもの足で）実際どれだけかかるか実証されたのでしょうか？

私の住んでいる葛城台でも、夏の暑い日は新1年生が重たいランドセルを背負ってふうふう言いながら帰って来ています。

それを見ているので、今まで以上に通学距離をのばしたら、子供達にストレスが大幅に増加することはまちがいありません。

この基本計画では、統廃合ありきの案そのものだと思います。

私は上牧に住んでよかったと誰もが思えるような町づくりをする為にも、統廃合しない、国の方針ではなく、町独自の教育方針をつく

るべきだと思います。

子どもたちの立場に立って教職員、行政、地域住民に声を早く聞いてもらえるような場をお願い致します。

ご意見に対する考え方

中学校の統合に当たっては、上牧中学校の生徒も上牧第二中学校の生徒も「統合してよかった」と思えるような環境づくりを目指し、特別支援教育の質が低下しないように努めます。

通学の問題は、今後、委員会及び部会で協議を行いますが、児童生徒の荷物の軽減は、ICT 機器の普及に伴って、学校と連携を図りながら検討しなければいけない課題だと考えています。

小学校の統廃合に関しましては、校区編制が伴うことが考えられます。仮に、上牧小学校と上牧第三小学校が残る場合、現在の上牧第二小学校区であり、上牧町の北部に位置する自治区に関しましては、上牧第三小学校区をまたいで上牧小学校に通うことは非現実的と考えています。小学校の統廃合及び校区編制につきましては、地理的な観点も重要だと考えています。

意見番号5：「上牧町独自の基準を」「跡地利用の明示を」

いただいたご意見

今回の小・中学校の統廃合の問題も国の進めようとしている方向に則って統計資料を使って結論へ導いていく手法が取られているのではないのでしょうか。素案の8ページの小学校に関する分析の項では35人学級という国の基準を無批判的に基準にして単学級の弊害を列挙して誘導しています。中学校についても同様です。13ページ以降に示された基本方針についても拙速に進めることなく公教育とはどうあるべきかを基準に上牧町住民の知恵を結集して独自の方向を定めていく事を期待します。

9ページの国の考え方では「学校教育では児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することにより、一人一人の資質や能力を伸ばしていく環境が求められていますが・・・」と学校の在り方を述べているが、こうした教育を実現する為に30人を超えるクラス人数と1学年複数クラスがなぜ必要なのでしょう。中学校

で教科担任数に沿った学級数がなぜ必要なのか？通学距離は文科省が行ったストレス調査を基に一般的基準とし、通学時間はおおむね60分以内を一般的基準としているがその根拠は示されていません。何が一般的なのか？重すぎるランドセル・かばん・通学途中の犯罪の増加傾向などは重く受け止められているのだろうか？1学年1クラスでもいい。1クラス20人程度（3～5人のグループが5グループ）が理想です。そこに配置された教員は、十分な時間と専門的能力を発揮して豊かな教育実践が出来る。公平に機会が与えられた子供たちが小グループに編成されたクラスで協力（競争ではない）し、互いに刺激し合いながら一応に基礎学力を得、論理的思考能力を培う為に学び合う。急いで統廃合する必要はないのです。廃校になった学校跡地を地域コミュニティの場に生かしていく等、その後の利用について明確にすることも必要。日本で地域コミュニティが進まない背景の一つに、競争至上主義の教育行政のゆがみがあるのではないのでしょうか。学校教育の在り方が問われています。同時に上牧町という小さな自治体が輝けるかどうか、も問われているのではないのでしょうか。

ご意見に対する考え方

アンケートの「1学級の人数」に関する質問においても、「21人～30人がちょうどいい」という回答が最も割合が高い結果となっていますが、1学級当たりの児童生徒数や県から配置される教員数は法律（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律）で定められており、上牧町が独自で少人数の学級編制を行ったとしても、そのために必要な教員数を確保することは難しいのが現状です。

そのようななか、各学校においては、毎年県に教員の加配を要望し、少人数指導等の工夫を凝らし、きめ細やかな指導に努めていますが、教員の加配は毎年確実に配置されるという保証がありませんので、統合によって一定の学校規模を維持し、安定した学校運営を行っていく必要があると考えています。

*町の考え方

廃校後の跡地利用については、小学校に関しては、今後検討していきますが、上牧第二中学校に関しましては、施設を取り壊すことなく、別

の目的で使用する予定です。

意見番号6：「単学級でもよい」「費用負担がないように」

いただいたご意見

9ページ 学級数や児童生徒が少ないことで生じる可能性のある問題

②クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができる、平均点でクラス同士を競わせる考え方だと思いますが、自分の学級は気にとめても、隣のクラスの平均点より高いとか低いとかは児童にとっては関心がないことです。担任は気にするかもしれないが、平均点だけでは学力が計れないと私は考えますので、単学級でもよいと思います。

⑥体育や音楽も、20人もいれば対抗試合ができるし、合唱・合奏も円滑にできるので、単学級でもよい。

多様性という点では、人数が多い方が多様性があってよい。

① いじめがある場合、クラス替えができないのは困るという意見があると聞いたが、現在でも転校している児童がいると聞いたことがあり、転校するならば、単学級でもよい。

結論をいうと、私は単学級はそんなに問題はなく第二小学校は残すべきだと考えます

10ページ

スクールバスは上牧では必要ないと思います。

P.13の小中学校の統廃合について、小中一貫校についてはよくわからないが、実施したところで良かったという成果がでていないのが実情なので一考する必要がある。

P.15の③統廃合に伴う事務等のア)制服がかわる場合、父兄の負担は大きくなる。上牧中の最近の変更で上の子の服が利用できなかったのが高くついたと聞く。統合するのは中学校になるが、統合前のおさがりも含めて着られなくなるまで着用を認めて制服の多様性を認めたらよいと考える。

建築の問題について、第三小を除くと他の校舎は過去の人数の多い教室数になっており増築や統合に伴う改築等は必要ない。建築費がほとんどいらなくなり新たな負担はないと考える。

ご意見に対する考え方

少人数学級にもメリットがあるのは承知していますが、上牧町では、学校では単に知識や技術の習得だけではなく、集団生活のなかで、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することにより社会性や規範意識を身につけることが重要と考え、そのような学校教育環境の整備に向けて取組を行っています。

制服に関しましても、委員会や部会で検討を行いますが、新入学生以外の児童生徒につきましては、統合時に着用している制服をそのまま着用できるような措置が必要ではないかと考えています。

意見番号7：「家の購入理由」「公平な校区編制を」

いただいたご意見

中学校が上牧中に一本化されるのは反対です。上牧第二中学校を想定して新居を購入しました。住所により近い方に振り分けてほしいです。

ご意見に対する考え方

通学に関しましては、生徒の負担をできる限り軽減できるよう、令和4年度に設置する委員会及び部会で協議してまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

意見番号8：「特別支援学級の子どもたちのことを考えて」

いただいたご意見

統廃合は反対です。特別支援の子たちの立場も尊重してあげていただきたい。今は昔と違って発達障害の子が増えています。特別支援の子たちは大勢の場所が苦手で、環境が変わることにも敏感で苦手であるため、統廃合を行うと不登校になる子も出ると思います。現在はいじめにあつたら町内の他校に転校できるが統廃合を行うと逃げ場もなく不安。また、上小と上中の地区はいじめが多いと聞いており、二小と二中は支援が手厚いと言われているので、上牧第二小地区に引っ越しを決めました。それを望んで上牧第二小・中に来る方も多いと聞きます。親や子どもの心を大事にしていきたい。

ご意見に対する考え方

特別な支援や配慮が必要な児童生徒へのケアは特に注意が必要と考えており、子どもたちが安心できる環境整備も含め、今後も特別支援教育の充実に努めたいと考えております。町内の各学校に関しましては、どこの学校はいじめが多く、どこの学校は支援が手厚くないということはなく、どの学校も同じように教育に向き合っています。

意見番号9：「統廃合よりも少子化対策を」

いただいたご意見

少子高齢化はすべての自治体の共通の課題であり、対応の準備は重要だが、本計画案は少子化を受容し、これを前提に論じられている点に違和感がある。少子化や人口増への対応として、例えば医療費や高等教育に係る助成の拡充、空き家を活用した転入促進、大企業の生産・研究拠点や大型商業施設の誘致による町の活性化等を期待する。P.17の今後のスケジュールについて、この計画は今後10年程度先までを想定した中期のものにすぎず政策判断の材料としては視野が狭い。人口増加を真剣に考えるのであれば学校は維持・拡充こそすれ、統廃合という発想は出てこないはずである。教育に必要な経費は将来への投資であるという根本理念から目をそらしてはいけない。

ご意見に対する考え方

本協議会で取りまとめた基本計画を基に、今後、様々な課題に対して、令和4年度に設置する委員会及び部会で具体的かつ慎重に協議を重ねる予定です。ご意見・ご指摘を頂戴した点については、今後の協議の参考とさせていただきます。

*町の考え方

少子化や人口増加への取組については、跡地利用等も含め、上牧町として総合的に検討を進めてまいりたいと考えています。

意見番号 10：「移住者の受け皿となるまちづくりを」

いただいたご意見
全国的に少子化問題を抱える中で、学級閉鎖や学級人数を削減していくという考えになると思うが、今後、南海トラフ等の災害を想定して地方に移住したいと考える人も多くいるように思います。移住先の受け皿として都市と地方のバランスを考えた町づくりをするのが一番ではないか。
ご意見に対する考え方
本協議会で取りまとめた基本計画を基に、今後、様々な課題に対して、令和4年度に設置する委員会及び部会で具体的かつ慎重に協議を重ねる予定です。ご意見・ご指摘を頂戴した点については、今後の協議の参考とさせていただきます。
*町の考え方 少子化や防災への取組については、跡地利用等も含め、上牧町として総合的に検討を進めてまいりたいと考えています。

意見番号 11：「質問・相談の場を」「不登校・通学負担への対策を」

いただいたご意見
子を持つ保護者として、現在上牧第二小・中学校地域に住んでいます。最終決定の前の意見調査のみではなく、具体的な議論を行う場や直接の質問・相談の場を設けていただきたい。P.8～9について大事な問題で解決を望むが、不登校の児童生徒が増加傾向にある近年、さらに学校に通いづらくなる要因やリスクを増やす方が大問題だと思えます。通学距離が長くなると、身体的負担や帰りが遅くなる等の時間的な制約、事故や事件への不安が高まる。P.13に「児童生徒、保護者、地域住民の負担軽減を図ることが出来るよう、最大限配慮することとし、具体的な内容については今後検討を続けることとします。」と明記されていますが、具体的にどのような配慮が提案され、実行していただけるのか。(片岡台付近から上小や上中へ登校する場合) 児童数や教育面の優先、国の方針 (P.13) だから許容範囲内で安心とは

なりません。児童数が少ない地域の子どもたちはさらに長距離を少人数またはひとりで登校しなければいけないというリスクがあるので十分に考慮していただきたい。例えば、コミュニティバスやスクールバスを整える等。また、様々なハンディを持つ児童たちへの配慮も含めて検討してほしい。上記の対策がなければ小中ともに統合は賛成できかねます。

ご意見に対する考え方

PI7 のスケジュールにもありますように、令和4年度以降、様々な場における住民や保護者の方々への説明会を予定しております。

通学に関しましては、生徒の負担をできる限り軽減できるよう、令和4年度に設置する委員会及び部会で協議してまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

小学校の統廃合に関しましては、校区編制が伴うことが考えられます。仮に、上牧小学校と上牧第三小学校が残る場合、現在の上牧第二小学校区であり、上牧町の北部に位置する自治区に関しましては、上牧第三小学校区をまたいで上牧小学校に通うことは非現実的と考えています。小学校の統廃合及び校区編制につきましては、地理的な観点も重要だと考えています。

中学校に関しましては、小学校とはまた基準が異なると考えていますが、適正距離等も含め、今後の委員会及び部会で協議を重ねる予定です。

意見番号 12：「通学距離の延伸に伴う防犯への取組を」

いただいたご意見

P.30（5）小中学校の統廃合により気がかりに思うことについて、仮に第二小校区が上牧小で上牧小校区が第二小とする場合の通学・下校に対する取り組みが知りたい。距離があるので万が一何かあればどうするのか。

ご意見に対する考え方

小学校の統廃合に関しましては、校区編制が伴うことが考えられます。仮に、上牧小学校と上牧第三小学校が残る場合、現在の上牧第二小学校区であり、上牧町の北部に位置する自治区に関しましては、上牧第三小学校区をまたいで上牧小学校に通うことは非現実的と考えていま

す。小学校の統廃合及び校区編制につきましては、地理的な観点も重要だと考えています。また、通学距離の延伸に伴う防犯上の課題に関しましても、通学手段等の課題と併せて令和8年度以降の委員会及び部会で協議を重ねてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

意見番号 13：「家の購入理由」「不登校・通学負担への対策を」

いただいたご意見

小学校の統廃合はわかりかねます。小学校など学びの場が近いのが理由で家を構えました。こちらから上牧小まで安全な道があるとは思えず子どもに長距離を歩かせることに不安を覚える。ましてや昔と違い治安が悪くなっている世の中で、不安に思わない親はいないと思います。大人でも重いもののかついで長距離の移動をよしと思う方は多くない。そのようなことを小さい子どもたちに課すのか。私には理解ができないし、不登校の原因にもなります。まず学校を減らすような楽な道を考えるのではなく、移住や子育てしたいと思える政策を考えたらどうか。長い目で見たときにそちらの方が町の発展に繋がると思います。

ご意見に対する考え方

小学校の統廃合に関しましては、校区編制が伴うことが考えられます。仮に、上牧小学校と上牧第三小学校が残る場合、現在の上牧第二小学校区であり、上牧町の北部に位置する自治区に関しましては、上牧第三小学校区をまたいで上牧小学校に通うことは非現実的と考えています。小学校の統廃合及び校区編制につきましては、地理的な観点も重要だと考えています。また、通学距離の延伸に伴う防犯上の課題に関しましても、通学手段等の課題と併せて令和8年度以降の委員会及び部会で協議を重ねてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

意見番号 14：「通学負担が大きい自治区への対策を」

いただいたご意見

P.13の学校の統合について、残すのはなぜ上牧小と第三小なのか。通学のことを考えると残すのは上牧小と第二小にすべきではないか。第二小を残せば真ん中にある第三小の子たちは上牧小か第二小のそれぞれ

の家から近い方を選択できるが、第三小を残すとなると第二小の子たちは第三小に行くしかない。北西の端にある金富(梅ヶ丘)は今、校区内の第二小でも通学路が危険になってきており、変更を申し出ている。安全な通学路を考えると第二小に40分以上かかってしまう。これを第三小までと考えると1時間を超えてしまう。子どもの通学にかかる時間は30~40分が限度だと思う。また、中学校を一校にすることで、第二中の北の端の子たちは上牧中まで1時間以上かかるだろう。ただでさえ上牧町は学力が低いと言われているのに、学校が遠くなることで通うのが精一杯で、着いた時には疲れて勉強に集中できないのではないかと。昔、中学校が町内に一校だった頃は住宅地の範囲がこんなに広くなかったはずだ。北は片岡台の団地や下牧の旧家辺りまでだったと思うが、今は河合町(大輪田方面)との境やイトヨシの裏側まで住宅地の範囲が広がっている。子どもの人数は減っているが住宅地の範囲がこれだけ広がっている以上、学校を統合するには無理がある。中学校を一校にしたいのならば真ん中にある第三小にすれば、まだ平等に通える気がする。どうしても案のように統合するのであれば、幼稚園のように小学校中学校ともにスクールバスを出すべきである。金富地区のみ幼稚園のスクールバスを運行していない。全地区、通園通学の時間を平等にすべきだ。学校の統合案について金富地区を除外して考えるようであれば、この案には断固反対する。

ご意見に対する考え方

金富・梅ヶ丘地区の方々には、通学の点でご不便をおかけしていることは承知しております。令和4年度に設置する委員会及び部会で協議するに当たっては、特に通学が困難になる自治区に重点を置いて検討をしなければならぬと考えています。

意見番号 15：「特別支援学級等の環境整備の徹底を」

いただいたご意見

第二小、第二中の閉校には反対です。なぜ真ん中にある第三小を閉校にしないのか。真ん中にある第三小の子たちなら、なくなっても近い方の小学校を選択できる。第二小を残してほしい理由は、①第二小学校はひまわり学級(特別支援学級)が充実している、②ペガサス教室は北葛城

地域で上牧第二小にしかないが、第二小がなくなったらどこに移転するのか。ペガサス教室の先生とひまわり学級の先生とは連携して指導されているようで、どちらの学級の生徒も孤立せず学校生活が送れているのだと思う。中学校だが、逆に上牧中の南の端(葛城台)の子たちが第二中に通うとなったら通えますか？第二中の北の端の子たちも同じです。行くだけで体力を消耗し、勉強どころではなくなる。学力向上のためにも現状維持をお願いします。第二中を残してほしい他の理由は、①学校の雰囲気は他の学校にはないほどよい。②問題を投げ掛けるとすぐに対処してくれる。例えば、金富(梅ヶ丘)地区のみ通学路が違うが、登下校時の生徒に行き届いた配慮をしてくれた。この中学校だからこそ、特別支援学級に通う次女を安心して通わせられると思っていました。上牧中に通うことになったら、いじめにあうのではないかと心配。第二中がなくなるのであれば、私立中学への入学を検討したい。統合するのであれば残す学校に、第二小、第二中と同程度の雰囲気作りと特別支援学級やペガサス教室に通う子たちの環境整備を万全に備え、子どもたちが不安にならないよう徹底してほしい。

ご意見に対する考え方

金富・梅ヶ丘地区の方々には、通学の点でご不便をおかけしていることは承知しております。令和4年度に設置する委員会及び部会で協議するに当たっては、特に通学が困難になる自治区に重点を置いて検討をしなければならぬと考えています。

なお、通級指導教室(ペガサス教室)は、上牧第二小学校内に設置されていますが、あくまで町の施設であり、王寺町や河合町の児童も通級しています。町内の小学校にはいずれも特別支援学級があり、子どもたちが安心できる環境整備も含め、同じように特別支援教育に取り組んでいます。また、上牧第三小学校内には、エレベーターが設置されており、エレベーターの使用が必要なお子さんは、校区に関係なく上牧第三小学校に通っていただけます。

統廃合後も、特別支援学級やペガサス教室に通うお子さんの環境整備を万全に備え、子どもたちが不安にならないよう努めてまいります。

意見番号 16 : 「在学中の児童生徒に対する環境整備を」

いただいたご意見
<p>P.11・P.13・P.23 で町も町民も単学級は望ましくないという考えのもと、適正化を進める方向性というのがわかりました。子どもたちの成長に重要な義務教育にとって重みのあることと考えますが、現状の単学級に対する施策はどのようなものが実施されているのでしょうか。P.21 でこのアンケートは実際に単学級の家庭に限定して実施すると回答は大幅に異なると思います。また2クラスと1クラスでは大きな差があると感じます。さらに同じ単学級でも上牧第二小の2年生 24 人、上牧第三小4年生 36 人では、人数が12人も異なり保護者の印象にも差が出ると思われます。全体的に考えても、現在の単学級が町内2クラス計60人で町内小学校計880人のうち約7%であり、単学級の意見が今回のアンケートでは反映出来ていないと感じます。P.8~P.9に列挙される問題が現在の単学級には実際に生じています。現在の単学級児童に対する望ましい学校教育環境の施策を第一優先に、並行して将来の計画を並行して進めることが重要だと考えます。P.15に、統廃合の「緩和すべき課題と取組例」等の記載がありますが、現状の単学級にはどのような施策が行われていますか。現状の単学級は、入学後に判明し、保護者への説明等もないままです。まずは、現状の単学級の子どもたちが望ましい教育を受けることができるよう対策をお願いします。</p>
ご意見に対する考え方
<p>アンケートで、現在学年に1学級しかないクラスに所属している児童に感想を聞いたところ、低学年では「ちょうどよい」が38.5%、「もっと多い方がいい」が61.5%であり、高学年では「ちょうどいい」が36.8%、「もっと多い方がいい」が57.9%でした。また、全体でも1学級を理想とする回答は0.6%であり、保護者の区分で1%、一般町民の区分で0.3%でした。「1学級」を望む回答は非常に少なく、「3学級」が最も多く、次いで「2学級」でした。そのことから、上牧町においても複数学級の維持を目指し、小・中学校の学校適正化に向けた取組を行うことが望ましいと考えています。</p> <p>また、小学校では、1~6年生合同でグループ分けし、掃除などの活動を協力して行うことで、学年の枠を超えて児童同士が触れ合える取組</p>

(縦割り活動)を行っています。(＊現在は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から休止しています)

意見番号 17：「在学中に影響を受ける子どもたちへの対策を」

いただいたご意見
<p>小・中学校の適正配置等に関する国の考え方や上牧町の今後の児童・生徒数の推移・推計については理解した。私は、上牧町で生まれ育ち、上牧第二小・第二中を卒業した。第二小・中学校区内に居住したいと考え、新築一戸建てに1年前から居住している。統廃合により、第二小・中学校が廃校になるかもしれないと知り、とてもショックを受けている。昨年に息子が産まれた後にこの計画を知り、素案を読んだ。息子が小学校の途中で学校が統合するかもしれない。統廃合はやむを得ないかもしれないが、校区の編成を変え、存続することは難しいのか。小学校の途中で学校が変わることが子どもに与える影響や、通学の問題にとっても不安を感じている。第三小には大人の足で20分、子どもの足だと倍ほどかかるのではないか。上牧小なら大人で30分程。スクールバスの運行等の検討もしていただけるのか。</p>
ご意見に対する考え方
<p>小学校の通学手段等の問題については、児童の負担を軽減できるように、令和8年度以降の委員会及び部会で協議を重ねてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。</p> <p>児童数が均等になるように校区編制をした場合でも、令和9年度には、単学級の学年が現れてきます。学校適正化を進める上で、短い期間に、同じ児童生徒に二度も負担をかけることは避けなければならないと考えています。</p>

2. 主な意見に対する回答

(1) 小・中学校の統廃合自体に反対

(上記に対する主なご意見)

- 学校が近いという理由で家を購入した
- 通学時間が増加し、子どもに負担をかける
- 学校が減ることで少子化が加速する
- 通学時の安全面が心配
- 学習の環境変化が心配
- 現状の学校数を維持したとして、少子化により単学級になっても子どもの成長に問題はない

(回答の要旨)

中学校の統廃合については、上牧第二中学校で生徒数・学級数の減少傾向が顕著であり、それに伴って同校では教員定数や部活動などにおける課題が既に発現しています。また、校区を再編して2校を維持したとしても、慢性的に生徒数・学級数が少ない状態が続き、上記の課題解消には至らないことが見込まれています（下記の表をご覧ください）。

(参考2) 生徒数が均等になるように校区編制をした上で2校を維持した場合

1校当たりの 生徒数・学級数	1年生		2年生		3年生		小計	
	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級	生徒	学級
令和4年度	71	2	77	2	90	3	238	7
令和5年度	61	2	71	2	78	2	210	6
令和6年度	62	2	62	2	72	2	196	6
令和7年度	68	2	63	2	62	2	193	6
令和8年度	58	2	68	2	63	2	189	6
令和9年度	64	2	58	2	68	2	190	6
令和10年度	58	2	64	2	58	2	180	6
令和11年度	56	2	58	2	64	2	178	6
令和12年度	52	2	56	2	58	2	166	6

※「上牧町学校適正化基本計画（素案）」のP.6から

一定の学校規模を維持するという事は、生徒数の減少に伴い部活動の選択肢が限られてしまうという課題を緩和でき、生徒が希望する部活動で生き生きと活動できる環境の実現につながります。また、学級数の

減少に伴い必要な教員数の確保が難しいという課題を解消できることから、科目の専門性を維持し、教育の質を担保するということにもつながっていきます。これらのことから、中学校については、現在の2校を1校に統合する方向性のもと、議論を進めてきました。その後、検討を重ねるなかで、施設改修を行った上で上牧中学校舎を存続することが決められました。その主な理由については、「学校適正化基本計画(素案)」のP.14に記載しています。中学校の統合を検討するに当たり、現行のままでは解消が難しい課題として主に取り上げたのは、次の点です。

- ◎推計の結果、上牧第二中学校では、令和8年度にはすべての学年が単学級となることが見込まれ、町が考える学級数のあり方（1学年2学級以上）の維持が難しい。
- ◎「学級数や児童生徒数が少ないことで生じる可能性のある問題」（「学校適正化基本計画（素案）」のP.9）が一部発現している。

また、中学校と並行して検討していた小学校の統廃合については、上牧第二小学校で児童数・学級数の減少傾向が顕著であること、また、校区を再編して3校を維持したとしても、令和9年度の新1年生からは複数学級の維持が難しくなることが見込まれています（下記の表をご覧ください）。

（参考1）児童数が均等になるように校区編制をした上で3校を維持した場合

1校当たりの 児童数・学級数	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		小計	
	児童	学級												
令和4年度	41	2	46	2	42	2	47	2	45	2	46	2	267	12
令和5年度	41	2	42	2	47	2	42	2	48	2	45	2	265	12
令和6年度	39	2	41	2	43	2	47	2	42	2	48	2	260	12
令和7年度	42	2	40	2	42	2	43	2	48	2	43	2	258	12
令和8年度	36	2	42	2	40	2	42	2	43	2	48	2	251	12
令和9年度	29	1	36	2	42	2	40	2	42	2	43	2	232	11
令和10年度	34	1	29	1	36	2	42	2	40	2	42	2	223	10
令和11年度	34	1	34	1	29	1	36	2	42	2	40	2	215	9
令和12年度	33	1	34	1	34	1	29	1	36	2	42	2	208	8

※「上牧町学校適正化基本計画（素案）」のP.5から

少人数学級においても、教員の目が行き届きやすい等のメリットがあることは承知していますが、上牧町では、学校では単に知識や技術の習得だけではなく、集団生活のなかで社会性や規範意識等を身につけることが重要であると考えています。学校生活を送るなかでは、気の合う友人に出会えることもあれば、苦手な人に出会うこともあるかと思えます。そのなかで、苦手な人とどのように関わっていくのか、どうすれば解決できるのかといった生き方も学んでいく必要があると考えています。そういった経験は、小学校及び中学校での義務教育を終え、高校や大学、また社会といったより広い世界へ子どもたちが飛び込んでいくときに、子どもたち自身のかけがえのない財産になると考えており、そのためには、複数学級を維持できる程度の学校規模は維持していかなければならないと考えています。

これらの理由から、現在の3校を2校に統合していく方向性のもと、議論を進めてきました。その後、「上牧町学校適正化基本計画（素案）」を作成するなかで、小学校を統廃合するのであれば、憶測や混乱を招くことを避けるため、現時点で学校名を記載すべきという考えから、2校を残すのであれば上牧小学校と上牧第三小学校、1校を残すのであれば上牧小学校と明記しました。その主な理由については、「学校適正化基本計画（素案）」のP.13～P.14に記載しています。小学校の統合を検討するに当たり、現行のままでは解消が難しい課題として主に取り上げたのは、次の点です。

- ◎推計の結果、上牧第二小学校では、令和13年度には全学年が単学級となる可能性が高いことから、町が考える学級数のあり方（1学年2学級以上）の維持が難しい。
- ◎「学級数や児童生徒数が少ないことで生じる可能性のある問題」（「学校適正化基本計画（素案）」のP.9）が今後顕在化していくことが懸念される。

ただし、小学校の統廃合に当たっては、通学面、また心身における一定の準備期間が必要であることから、当面は現在の3校を維持し、統廃合に関する具体的な時期と内容を引き続き検討していきます。

令和4年度からは「学校適正化基本計画」（素案）P.17に記載のスケジュールに沿って、小・中学校の統廃合について個別具体的な議論を進めていく予定です。

(2) 第二小学校、第二中学校の廃校に反対

(上記に対する主なご意見)

- 上牧第二小学校と上牧第二中学校は児童生徒に対する支援が手厚い
- 通学のことを考えると、残すのは上牧小学校と上牧第三小学校でなく上牧小学校と上牧第二小学校ではないか
- 上牧第三小学校の運動場や教室等が充足していない
- 学校が近いという理由で家を購入した
- 通学時間が増加し、子どもに負担をかける

(回答の要旨)

上牧第三小学校にはエレベーターが設置されており、エレベーターが必要なお子さんには校区に関係なく通っていただけるなど、施設面での違いこそはありますが、町内の各学校において、学校によって「支援が手厚い」「手厚くない」ということはなく、どの学校においても同じように教育に向き合っています。

「上牧町学校適正化基本計画(素案)」のなかで、中学校は上牧中学校、小学校は上牧小学校と上牧第三小学校を存続させることとしましたが、その主な理由については、「学校適正化基本計画(素案)」の P.14 に記載しています。

また、上記の方針において、上牧第二中学校と上牧第二小学校の廃校に反対である旨及びその理由をご意見としていただいておりますが、「上牧町学校適正化基本計画(素案)」をもとに最終的な「上牧町学校適正化基本計画」が策定された後も、令和4年度以降の委員会及び部会において個別具体的な検討を進めるに当たっては、通学面等の反対理由を真摯に受け止め、十分に配慮しながら進めなければならないと考えています。今後、住民や保護者の方々への説明会を適時行っていく予定ですが、その場に限らず、いただいたご意見等は各専門部会と共有し、少しでも子どもたちや保護者の方々の不便や不安を緩和できるよう誠実に取り組みたいと考えています。

(3) 統廃合に伴う通学手段や通学路の安全確保について

(上記に対する主なご意見)

- 学校から遠い子どもの通学時間がさらに長くなる
- 通学時間が長くなると子どものストレスや不登校につながる
- 通学時の安全面が心配
- 様々なハンディを持つ子どもへの配慮を検討してほしい
- 国の基準をそのまま適用しないでほしい

(回答の要旨)

「学校適正化基本計画（素案）」のP.15～P.16に、統廃合により生じる課題への対応について記載しており、想定される課題への対応が必要なことも認識しています。通学に関していただいたご意見を真摯に受け止め、令和4年度以降の委員会及び部会において具体的な対策等の議論を進めていきます。

子どもたちの安心・安全は、保護者の方々、また地域の方々の安心・安全につながるものと考えています。「学校適正化基本計画（素案）」のなかでは、国の基準として通学距離や時間に関することも示していますが、これらの基準がそのまま上牧町に当てはまるものとは考えていません。「国の基準では通学時間が60分以内であるから、上牧町においても60分以内は許容範囲とする」という安易な判断をせず、起伏等の地理的な要因、酷暑や豪雨などの天候的な要因、長距離の徒歩通学が難しい児童生徒への配慮などに十分留意し、上牧町としての適正距離等を検討していく必要があると考えていますので、今後、気兼ねなく相談していただける体制を整えていきたいと考えています。